

報告タイトル（＊日本語と英語両方ご記入ください）

“現代中国の政治エリートの昇進における地域格差：「政治高地」の所在と持続的有効性の検討—省委書記の去就データに基づくハザードモデルによる分析—”

“Regional Disparities in the Promotion of Political Elites in Contemporary China: The Formation and Persistence of “Political Highlands”—A Hazard Analysis of Provincial Party Secretaries’ Career Trajectories”

氏名（所属）

崔 子健（慶應義塾大学 政策・メディア研究科 博士後期課程）

CUI ZIJIAN（Keio University）

要旨（800 字程度）

本稿は、中国の省級党委員会書記（以下、省委書記）の昇進における地域間格差に着目し、他地域に比べて党と国家の指導者を多く輩出してきた地域を「政治高地」と定義する。そして、政治高地での勤務経験が、副国級以上への昇進ハザードとどのように関連するのかを検討する。

先行研究では、政治高地の歴史的背景や比較政治学上の位置づけ、エリートの昇進に関わる要因が論じられてきた。しかし、なぜ一部の地域が他地域より多くの指導者を輩出してきたのか、また、政治高地の所在がどのように変化してきたのかについては、十分な実証分析が行われていない。

本稿では、中央政治エリートの地方勤務歴と、各省における中央委員および中央候補委員の人数を用いて、党大会期ごとの政治高地指数を作成し、その所在と変遷を分析する。さらに、1992 年 10 月から 2026 年 5 月までの省委書記の任期別データを用い、政治高地と昇進との関連をコックス比例ハザードモデルによって検証する。分析対象は 190 件の任期であり、副国級以上への昇進イベントは 39 件である。

政治高地指数の分析から、その所在は党大会期ごとに変化していることが明らかとなった。上海、広東、北京などが高い水準を維持する一方、習近平体制下では浙江、福建、重慶の存在感が高まっており、内陸・西部地域との政治的格差も続いている。

コックス比例ハザードモデルの推定結果では、政治高地指数が 1 単位高い場合、昇進ハザードは約 21.6% 高く、両者の間には統計的に有意な正の関連が認められた。また、政治資本との交互作用も複数のモデルで有意であり、政治高地スコアと昇進ハザードとの正の関連は、政治資本をもたない幹部において相対的に強い傾向が確認された。